

動注リザーバー療法（抗がん剤投与の新しい形）をご存知ですか？

Q1. 動注リザーバー療法とは何ですか？ 普通の抗がん剤治療とはどう違いますか？

動注リザーバー療法では、カテーテルという細い管を、がんの近くの血管まで挿入し、「リザーバー」という小さな器具に接続し、皮膚の下に埋め込みます。こうして埋め込んだ「リザーバー」に、皮膚の上から針を刺すだけで、がんへ直接抗がん剤を投与することが可能となります。また、全身に流れる抗がん剤の量が少なくなりますから、副作用が少なくてすむことが期待できます。

Q2. どんな病気に使うの？

代表的なものとして、肝臓がん（肝細胞がん、大腸がんの肝転移など）に対する抗がん剤治療のひとつとして用いられます。この他にもさまざまな病気に応用されています。

Q3. リザーバーの埋め込み（留置）はどのように行うの？

リザーバーを留置する方法にはいくつかあります。代表的な方法としては、左の鎖骨の下（鎖骨下動脈）、股の動脈（大腿動脈）などがあります。局所麻酔で行い、皮膚に3～5 cmの切開をします。ここから患部に向けてカテーテルを挿入し、リザーバーとつないで皮下に埋め込みます。挿入に必要な時間は、おおむね1時間半から2時間半程度です。

Q4. 治療はどのように行うの？

留置されたリザーバーから薬を投与することが治療になります。薬の投与は多くの場合外来で行われますが、入院で行う場合もあります。

Q5. 日常生活に支障はありませんか？

リザーバーは完全に皮下に埋め込まれるため、日常生活を送る上での障害はほとんどありません。この治療の大きな特徴は、外来通院でも受けられることです。抗がん剤を投与している間も、自由に動くことができますし、投与が終われば針は抜きますので、激しい運動をしない限りは生活に制限がなく、傷が治ればお風呂にも入れます。

Q6. リザーバーを埋め込んでも副作用はありませんか？

リザーバーの埋め込みは「小さな手術」のようなものであり、出血や感染といった合併症が考えられます。その他、上半身にリザーバーを埋め込んだ場合に、まれに脳梗塞を発生することがあるといわれています。胃や十二指腸などに流れる動脈が、肝臓の動脈から枝分かれしている場合には、抗がん剤により胃潰瘍や十二指腸潰瘍などをきたすことがあるため、これらの動脈に抗がん剤が流れないように「血流改変術」を行います。

Q7. リザーバーはどのくらいの期間、埋め込んでおくの？

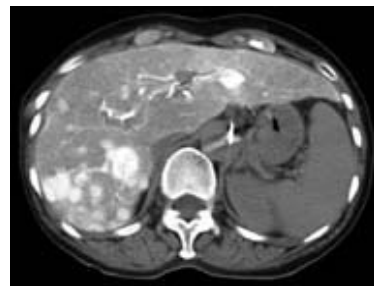
動注リザーバー療法は長期間にわたり行われることがあります。このためリザーバーも長期間留置されたままとなります。詳しくは担当医にご質問ください。

Q8. 埋め込みは外来でできますか？

リザーバー留置には入院が必要です。入院期間は3～7日間程度とお考えください。引き続き抗がん剤治療が開始される場合には、入院期間が延長することがあります。

Q9. リザーバーが留置されたら、いつから薬を入れますか？

留置後、リザーバーから造影剤を注入しながらCT撮影を行い、肝臓全体に薬が行き渡ることと肝臓以外に漏れていないことが確認できたら、治療を開始します。



リザーバーからの造影CTで、肝臓全体が白く染まっている。

Q10. 埋め込んだ後に注意することはありますか？ お風呂は入れますか？
抜糸するまでは、傷口をぬらさないようにしてください。また、留置部の過度の運動は避けてください。リザーバー留置後、抜糸までの期間は、適切な処置をすることでシャワー浴は可能です。抜糸後には入浴が可能です。

Q11. 治療中や治療後に気をつけることはありますか？

抗がん剤投与中に、お腹や背中に痛みや張る感じがあれば、カテーテルを入れた血管が詰まってしまったか、あるいは胃や十二指腸に抗がん剤が流れている危険性があります。このような症状が現れた場合には、すぐに担当医あるいは病院までご連絡ください。

Q12. 保険はききますか？ 費用負担はどれくらいになりますか？

健康保険が適応になります。実際の費用負担は施設にご質問ください。

Q13. インターネットで検索できますか？

リザーバー研究会ホームページ

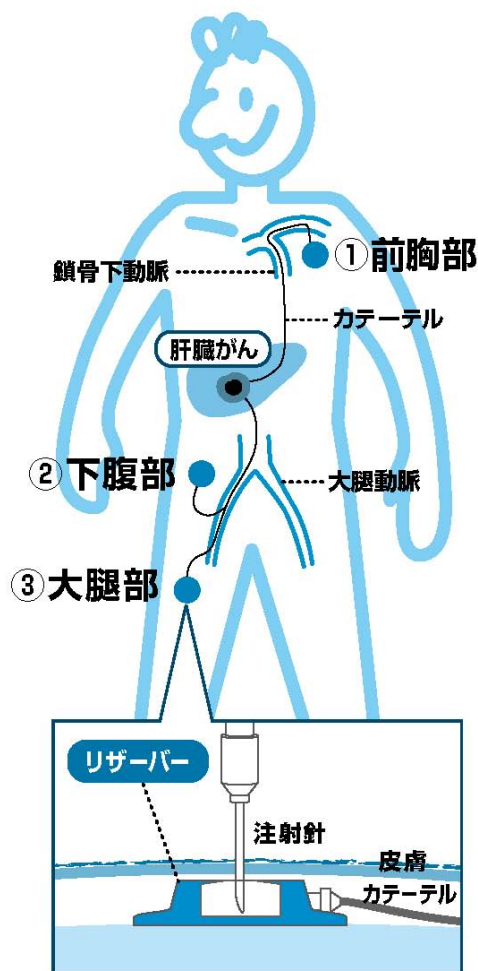
<http://www.reservoir-jp.com/>

日本IVR学会ホームページ

<http://www.jsivr.jp/>

で確認できます。

リザーバーを埋め込む主な部位



リザーバーに、皮膚の上から針を刺して、抗がん剤を注入します。

日本IVR学会 広報委員会

日本IVR学会 事務局

〒355-0063 埼玉県東松山市元宿1-9-4

ハイムレグルス1階

<http://www.jsivr.jp/>